

平成30年第11回 日高市教育委員会会議録

|               |  |
|---------------|--|
| 開催の日時         | 平成30年10月25日（木曜日）<br>午後1時42分から3時18分まで                                 |
| 会議開催の場所       | 市役所503会議室  |
| 会議の公開又は非公開の別  | 公開。  |
| 非公開理由         | —  |
| 出席委員の氏名       | 中村一夫（教育長）・矢次健志・島村由起男・神山好子・井上三枝                                       |
| 欠席委員の氏名       | なし   |
| 説明員の職氏名       | 教育部長 吉野靖彦・教育部参事 島津芳久・教育総務課長 鈴木雅広・学校教育課長 野村弘人・学校教育課副参事 松崎努・生涯学習課長 駒井実 |
| 出席した事務局職員の職氏名 | 教育総務課主幹 菊地誠治   |
| 傍聴者数          | 2人   |
| 会議資料の名称       | 会議次第・教育長報告・配布資料一覧  |

議題及び決定事項等

議案なし

会議の経過

1) 前回会議録の承認事項 出席委員異議なく承認

2) 教育長報告の要旨

○校長会議、教育委員会部課長会議における教育長指示・伝達内容について報告した。

○その他、各部課長から、実施した事業等の結果と今後の予定を報告した。

3) 教育長報告についての質疑及び答弁の要旨

【教育長報告関連】

(委員) 学校教育課長からの報告における人事について、定年退職者が10名で新規再任用希望が4名しかいない。再任用を希望しない理由は何か。

(学校教育課長) 個人的な事情であるが、健康面などによるものである。

(委員) 個人的な事情であれば特に問題ないが、例えば、もう学校に関わりたくないという理由であるなら、そこの部分に教職員の働き方に関する問題点が潜んでいるのではないかと思い確認したものである。

(委員) 英語検定について、準1級が2名もいる。かなり英語力があると思うが、対象者が英語力を身に付けたのは、どのような背景があるのか。

(学校教育課副参事) 2名とも帰国子女である。かなりレベルは高い状況である。

(委員) 2級については、帰国子女以外で受験者はいるのか。いる場合、どのように英語力を高めたのか。

(学校教育課副参事) 帰国子女以外にもいる。個人的に英語が好きで、突き詰めていくという子どもたちが数名いる。

(委員) ネイティブな英語を身に付けている子どもたちについて、英語の教員が指導する際に、受験英語にとらわれて文法などを頭ごなしに正すのではなく、このような考え方もあるよというような、コミュニケーション力を伸ばしていけるように指導の手法を工夫していただきたい。子どもたちがそのまま英語に興味を持って取り組めるようにして、ぜひ、つぼみをつぶすような指導をしないようお願いしたい。

(委員) 全国学力・学習状況調査の結果について、小学校5年から6年、中学校1年から2年の伸びがないという説明があったが、考えるに、基礎が出来ていないため、応用問題を解く力が欠けているのではないか。子どもたちが考える道筋を教えられる能力が教員に求められるのではないか。授業の見学をすると、子どもたちが考える前に教えてしまう教員も見受けられるが、見守るということも重要な指導方法と考える。

(教育長) ご意見のとおりである。先日も若手教員の勉強会を視察したが、どうしても子どもたちに考えさせないで、教えてしまう教員がいる。その部分についても教員の指導力、教材研究が重要であると考えます。

(委員) 小学校5年から6年、中学校1年から2年あたりは、教科書の分量も急激に増加する。そのあたりでつまづく子どもたちについては、3年から4年生頃にかけて基礎が身につけていないのではないか。

(教育長) 単純に解法だけ教えても学力は身につかない。いかに考える力を養えるかが問題である。

(委員) 答えにたどり着く前の過程が重要である。その過程を教える力が、教員の一番重要で、かつ、難しいところである。

(教育長) そこが重要であり、模索しているところである。

(委員) 学力の結果が徐々に伸びていることは喜ばしいことであるが、今後も流れを継続できるように指導力を向上させるために検証を重ねていただきたい。

(委員2) 学力調査の説明の中で、教科指導の在り方について、先生方が何を指導しているか問われたときに、明確に答えられるような状況であることが大切なことである。経験則に頼っていると、今までのとおり教えているというだけで、先生方の信条が見えない。何かを改善する際に、先生方にポリシーがないと、指導について指摘された際に、自主性に基づいた改善とならないのではないか。

(委員) 小学生の子どもたちに対して、将来の夢や目標を持っているかという質問は難しいのではないか。自然と湧き出てきたものを大事にして夢とするのは良いが、押し付けで考えさせての質問では意味がない。

(委員3) 野球の大谷翔平選手は、夢というか子どものころから自分の将来につい

て、段階を踏んで計画的に過ごしていたという話を聞いたことがある。何歳で何をするとか何になっているとか、こと細かく計画を立てて実践していたようである。

(教育長) 野球のイチロー選手やサッカーの本田選手も同様な話を聞いたことがある。子どもたちにもこのような話を紹介しながら、夢を持ってもらうように努めていきたい。

(委員) 細かい点の話となるが、各教科の課題の中で、分度器の使い方が分からない、オームの法則などが分からないというのは、基本的な部分の理解が出来ていないということであるので、こういう部分にも問題が潜んでいるのではないか。

(委員2) 考えさせることも大事であるが、ある程度基礎的な部分については、反復で教え込むということも重要であると考ええる。

(教育長) 体験させてみて、間違えた場合、その間違いを大事にして振り返ることによる学習も大事な部分である。間違えから学ぶことも非常に大事である。

(委員) ひだかツデーウォークの関係で、中学生のボランティアについて、昨年度は、集合場所の伝達がうまくいかないなど、かなり混乱があった。今年度は問題の無いように進めて欲しい。

(生涯学習課長) 今年度については、昨年度の反省も踏まえ注意して進めていくように改善している状況である。

#### 【教育長報告：資料1 関連】

(委員) 教職員の働き方改革について、先日の新聞で、公立小中学校の教員2,000人を対象にしたインターネットアンケートが実施されたようである。その中で、学校と自宅を含めた1週間の労働時間の平均が63時間となっていた。この影響について、様々な部分で関連していく問題であると考ええる。先ほど、なかよし運動会でミスが起こったとの説明の際に、種目を実施する上での基本的な部分でのミスであり、そこまで教える必要があるのかという話があったが、今の若い教員の世代については、そこまで教える必要があると考ええる。所謂、国の政策によりゆとり世代が生まれたわけであるが、「昔はこのぐらいは言われなくても判断した」であるとか「言わなくてもそれぐらいは分かるであろう」という考えは、全くナンセンスである。勝手なこちらの思い込みで、相手方が理解していると思うのは危険であり、ミスを防ぐには、基本的な部分から説明して意思疎通を図るようにしたほうが良い。校長や教頭世代が当たり前と思っていることが、若い世代では当たり前ではなくなっているので、よく確認しながら進めないと、ミスも起きるし余計な手間が増えてしまう。

(教育長) 働き方改革について、部活動の指導のことなどで感じるところがあるが、これから進めようとしているコミュニティ・スクールを含めて、地域のバックアップを得ながら、学校の業務のあり方を考えていかなければならない。この機会にもう一度、学校の中身を考え直していくことが必要である。授業のあり方なども子どもたちが本当に考えて答えを導けるような授業をしていけるようにしたい。

現状で教師がプリントを刷って子どもたちに配ってという方法が、本当に子どもたちのために必要なことか考えると、一生懸命やっているつもりで満足していないか。子どもたちが考えればノート作り方も変わってくるだろうし、教員もそれらに取られている時間が有効に使えるのではないか。

(委員) ノートについては、ある程度の学力がある子でないと効果的なノートは作れないと考える。子どもたちが自発的に教科書を開くように教員がいかに疑問を投げかけ、誘導できるかではないか。

(教育長) 先進視察の際に、岩手での家庭学習ノートの作り方などは、教科書を開く機会を誘導するような作りになっており、学びを習慣づけるように仕向けるとともに効率的に進められるようにすれば、教員も時間をさらに有効活用できるようになるのではないか。

(委員) 学校でノート提出があるが、それについての効果は疑問である。やらない子たちへの習慣づけということは理解できるが、自発的ではない可能性があり、必ずしも学力につながっているとは思えない。

(委員2) 子どもたちにとっては、家庭学習をしてノートを先生に提出して、先生から一言コメントを記入されて返却されるものが励みになっていることもあるので、全てが悪いことではないと考える。

(委員) 自発的に考える力を身に付けさせることも重要であるが、まずは、子どもたちが自発的になるきっかけづくりに取り組むことも必要である。そこが、全ての問題に関連してくる根底にあるものと考えている。

(教育長) いかに子どもたちの学びの意欲を高めるか、全ての教育活動について、見直していく必要がある。今までの経験則だけで進めてしまうと改善されないので、何のための取り組みか理解して、意欲を高める工夫をしていく。

(委員) テレビを見ている時間など様々な問題点があるが、地区によって問題点の差はあるのか。

(学校教育課副参事) 資料には掲載していないが、地区によって差はある。

(委員) そういう部分を突き詰めていくと、地区によっての取組みの差があるかどうかの分析をして検証する際のヒントになる。

(委員) 小中学校未来構想について、先生方への説明をしたとのことであるが、先生方の反応はどうであったか。

(学校教育課長) 現在7校の説明が終わっているが、理解をいただいて、今後、協力していくという意見を受けている。質疑の中では、スケジュールの点で心配があること、人的な配慮、教職員の負担増などの意見があった。

(教育長) 実施することについての反対はなかった。細かい点で不安な面があるという意見を受けており、不安を解消するよう丁寧に説明していく。

(委員) 小中一貫教育の中で、教育課程が一本化されることで中1ギャップなど改善される場所もあると思われるが、小学生と中学生の縦の関係について、小中一貫教育にすることで生まれる効果的な取組みを検討してほしい。

(教育長) 説明会の中では、コミュニティ・スクールの説明で地域と連携しながら

取り組むことと小中一貫教育については、9年間を見通してどのような取り組みをしていくのか、どのような子どもたちとしていくのか。小学生は上級生の中学生を見て尊敬する、中学生は小学生を見て慈愛の心で接することが出来る。このような心を持った子どもたちを育てることが出来るという説明をした。

(委員2) 講演会を聞いた方の中では、初めて聞く話であるが、内容が良く分からないという意見を聞いた。説明の回数を重ねて、理解を深めていただくことが重要であると感じた。

#### 4) 議案についての質疑及び答弁の要旨

議案なしのため質疑なし。

#### 5) その他

##### (1) 次回定例会の日程等について

○11月定例会：11月21日（水曜日）午後1時40分から 委員了承

○12月定例会：12月18日（火曜日）午後1時40分から 委員了承

##### (2) その他連絡事項

○平成30年度入間地区教育委員会連合会視察研修

平成30年11月13日【草加市：草加市立高砂小学校】

○各公民館文化祭

高麗川・武蔵台公民館 10月27・28日（土・日曜日）

高萩・高麗川南公民館 11月3・4日（土・日曜日）

高麗公民館 11月17・18日（土・日曜日）